

科目名	※小児看護学概論	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生 2学期						
科目の目的と概要	小児の特徴を理解すると共に小児看護における役割を学ぶ						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3、DP4、DP5の達成に寄与						
到達目標	1. 成長・発達段階ごとの特徴が述べられる 2. 成長・発達段階に応じた看護が理解できる 3. 小児看護における概念や理論を理解できる 4. 子どもを取り巻く法律や制度を述べられる						
回数	教育内容					時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 小児の特徴と成長・発達					2	講義
2	胎児期・新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における成長発達① グループワーク					2	演習
3	胎児期・新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における成長発達② グループワーク					2	演習
4	胎児期・新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における成長発達③ 発表					2	演習
5	胎児期・新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における看護①					2	講義
6	胎児期・新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期における看護② 小児看護における概念と理論 ピアジェの認知発達理論、ボウルビイの愛着理論、マラーの分離－個体化理論					2	講義
7	小児看護・医療における諸統計					2	講義
8	遊びと成長発達の関係 グループごとに発表(各個人の玩具についての課題)					3	講義
9	子どもを守る法律と制度 グループワーク (母子保健法・児童福祉法・学校保健安全法・児童虐待防止などに関する法律と施策)					2	演習
10	子どもを守る法律と制度 発表					2	演習
11	医療における子どもの権利 虐待 小児医療・小児看護における倫理的配慮					2	講義
12	小児看護の対象と看護師の役割 小児看護の場と特徴					2	講義
13	小児における疾病の経過と看護 急性期、回復期、慢性期、終末期にある小児と家族の看護					2	講義
14	小児の事故と外傷の看護 小児の事故の特徴とその要因 主な事故(外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症)					2	講義
15	終講試験					1	試験
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論(医学書院) 看護のための人間発達学(医学書院)						
関連科目	健康支援論、小児看護学						
その他	※ この科目は実務経験のある教員による授業科目である。						

科目名	小児看護疾病論	単位	1	時間	30	講師名	院外講師(医師)教員
開講時期	2年生 1学期						
科目の目的と概要	小児期の特徴的な健康障害を学ぶ						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3、DP4、DP5の達成に寄与						
到達目標	小児期の特徴的な健康障害を理解することができる						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明 1. 先天異常 1)染色体異常 2. 代謝性疾患 1)糖尿病 2)先天性代謝異常症	2	講義				
2	3. 内分泌疾患 1)下垂体疾患 2)甲状腺疾患 3)骨・副甲状腺疾患 4)副腎疾患	2	講義				
3	4. 呼吸器疾患 1)上気道の炎症 2)気管支炎 3)肺炎	2	講義				
4	5. 免疫・アレルギー疾患 1)気管支喘息 2)食物アレルギー 3)アトピー性皮膚炎 6. 神経疾患 1)てんかん 2)熱性痙攣 3)水頭症	2	講義				
5	7. 感染症 1)細菌感染症 2)ウイルス感染症	2	講義				
6	8. 運動器疾患 1)発育性股関節形成不全 2)骨折	2	講義				
7	9. 消化器疾患 1)口唇・口蓋裂 2)鎖肛 3)肥厚性幽門狭窄症 4)腸重積 5)胆道閉鎖症 6)急性乳幼児下痢症 7)急性胃腸炎	2	講義				
8	10. 循環器疾患 1)心室中隔欠損症 2)ファロー四徴症 3)川崎病 4)乳幼児突然死症候群	2	講義				
9	11. 腎疾患 1)急性糸球体腎炎 2)ネフローゼ症候群	2	講義				
10	12. 腫瘍 1)白血病 2)神経芽腫 3)骨肉腫 4)脳腫瘍	2	講義				
11	授業の進め方の説明 1. 症状を示す小児の看護 1)不機嫌・啼泣 2)発熱 3)発疹 4)悪心・嘔吐 5)下痢	3	講義				
12	1. 症状を示す小児の看護 6)便秘 7)脱水 8)呼吸困難 9)チアノーゼ 10)痛み	2	講義				
13	1. 症状を示す小児の看護 11)意識障害 12)痙攣 13)ショック	2	講義				
14	1. 症状を示す小児の看護 14)黄疸 15)浮腫 16)掻痒感	2	講義				
16	終講試験	1	試験				
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論(医学書院)						
関連科目	健康支援論、小児看護学概論、小児看護疾病論、小児看護方法論Ⅰ、小児看護方法論Ⅱ						

科目名	小児看護援助論	単位	1	時間	15	講師名	院内外講師
開講時期	2年生 2学期						
科目の目的と概要	安全・安楽を保持するための、小児看護に必要な看護技術を学ぶ						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3、DP4、DP5の達成に寄与						
到達目標	1. 小児の全身状態を観察し、処置をするための技術が理解できる 2. 重症心身障害のある児の看護が理解できる 3. 重症心身障害のある児の看護に必要な技術が習得できる						
回数	教育内容	時間	方法				
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 小児の成長・発達及び全身状態を観察するための技術 ①コミュニケーション②バイタルサイン③身体計測 ④カウプ指数⑤ローレル指数	2	講義				
2	2)小児の与薬技術 ①与薬、経腸、座薬、注射、点滴、貼布 ②点滴管理の実際	2	講義 演習				
3	3)検体採取 ①採血、採尿、採便 2. 安全・安楽を保持するための技術:抑制	2	講義 演習				
4	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 3. 重症心身障害のある児の看護 1)症状:姿勢・運動・筋緊張の異常、呼吸障害、痙攣 2)症状を緩和するための看護	2	講義				
5	3)二次的予防のための援助 リハビリテーション、環境整備(転倒・転落予防) 4)発達を促すための援助(レクリエーション) 5)長期入院する児と家族との関わりをもつための援助	2	講義 演習				
6	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 4. 重症心身障害のある児の呼吸を整える技術 ①人工呼吸器装着中の看護、吸引、ポジショニング ②呼吸リハビリ、ポジショニング、体位変換の実際	2	講義 演習				
7	5. 重症心身障害のある児の摂食・嚥下リハビリテーション 摂食・嚥下とは 嚥下リハビリテーション(直接訓練・間接訓練) 食事介助の実際	2	講義 演習				
8	終講試験	1	試験				
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	新体系看護学全書 健康障害をもつ小児の看護(メヂカルフレンド社) 写真でわかる小児看護技術 アドバンス(DVD付)(インターメディカ)						
関連科目	健康支援論、小児看護学						

科目名	小児看護援助論	単位	1	時間	15	講師名	院内外講師
開講時期	2年生 2学期						
科目の目的と概要	重症心身障害のある児の特徴を理解し、必要な看護とその技術を学ぶ						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3、DP4、DP5の達成に寄与						
到達目標	1. 重症心身障害のある児の看護が理解できる 2. 重症心身障害のある児の看護に必要な技術が習得できる						
回数	教育内容				時間	方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 重症心身障害のある児の看護 1) 症状: 姿勢・運動・筋緊張の異常、呼吸障害、痙攣 2) 症状を緩和するための看護				2	講義	
2	3) 二次的予防のための援助 リハビリテーション、環境整備(転倒・転落予防)				2	講義	
3	4) 発達を促すための援助(レクリエーション)				2	講義	
4	5) 長期入院する児と家族との関わりをもつための援助				2	講義	
5	2. 重症心身障害のある児への看護技術 1) 呼吸を整える技術 ①人工呼吸器装着中の看護、吸引、ポジショニング				2	講義	
6	②呼吸リハビリ、ポジショニング、体位変換の実際				2	演習	
7	2) 重症心身障害児の摂食・嚥下リハビリテーション ①嚥下リハビリテーション(直接訓練・間接訓練) ②食事介助の実際				2	講義 演習	
8	終講試験				1	試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論(医学書院) 写真でわかる小児看護技術 アドバンス(DVD付)(インターメディカ)						
関連科目	健康支援論、小児看護学						

科目名	小児看護方法論	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	2年生 2学期						
科目の目的と概要	小児各期の特徴的な健康問題を理解し、小児及びその家族に対し、成長・発達を促し、病気の回復及び健康の保持増進のための看護とその技術を学ぶ						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3、DP4、DP5の達成に寄与						
到達目標	1. 小児の全身状態を観察し、処置をするための技術が理解できる 2. 小児各期の特徴的な健康問題を理解できる 3. 小児及びその家族に対する看護、支援が理解できる						
回数	教育内容				時間	方法	
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 小児の成長・発達及び全身状態を観察するための技術 ①コミュニケーション②バイタルサイン③身体計測 ④カウプ指数⑤ローレル指数				2	講義	
2	2. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護 1) 検査や処置を受ける子どもと家族への説明 ①インフォームドコンセント ②プレパレーション				2	講義	
3	2) 小児の与薬技術 ①与薬、経腸、座薬、注射、点滴、貼布 ②点滴管理の実際				2	講義 演習	
4	3) 検体採取 ①採血、採尿、採便 3. 安全・安楽を保持するための技術:抑制				2	講義 演習	
5	2. 先天性疾患・手術療法を受ける児の看護 1) 先天性心疾患を持つ児と家族への援助 2) 手術療法を受ける児と家族への援助				2	講義 演習	
6	3) 事例/ファロー四徴症の患児の看護(乳幼児期) ①看護過程の展開 ②インフォームドコンセント・プレパレーション				2	演習	
7	③発表と解説				3	講義・演習	
8	3. 慢性疾患をもつ児の看護 1) 慢性疾患を持つ児と家族への援助 2) 事例/ネフローゼ症候群の患児の看護(学童期) ①看護過程の展開:ステロイド治療開始時				2	講義 演習	
9	②発表と解説				2	演習	
10	③看護過程の展開:ステロイド奏功・院内学級の開始				2	演習	
11	④発表と解説				2	講義・演習	
12	4. 予後不良の経過をたどる児の看護 1) 予後不良の疾患を持つ児と家族への援助				2	講義	
13	2) 白血病の患児の事例検討(骨髄穿刺含む)				2	演習	
14	3) 終末期にある児と家族の心理の理解と援助				2	講義	
15	終講試験				1	試験	
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学2 小児臨床看護各論(医学書院 写真でわかる小児看護技術 アドバンス(DVD付)(インターメディカ)						
関連科目	健康支援論、小児看護学						